

教宣

志木 標

渡 辺 朗

ムシロ旗と民主社会主義

— 選挙戦の中で思ったこと —

『改革者』（民主社会主義研究会議発行）
昭和五十二年三月号からの抜き刷り

ムシロ旗と

民主社会主義

—選挙戦の中で思ったこと—



渡 辺 朗

(衆議院議員・民社党
静岡県第二区)

日本という社会は、モダンなよそおいはしているけど「巨大なムラ」ですよ。私はそのムラの外側にいつも立っていたんです。私が拒絶反応にあうのは当然のことだったわけです。

編集部 このたびはおめでとうござ

いました。衆議院議員としてこれからのご活躍を期待していますよ。それにしても最高点当選はすばらしいことでしたね。

渡辺 ありがとうございます。これはほんとうに多くの人から心のもった応援をいただいたおかげです。ことに民社研の方々には長年にわたってご支援をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

編集部 ところで苦勞が長くて大変でしたね。よくつづくなあとみんな案じていましたが、何年になりましたかね、はじめての立候補から。

渡辺 ちょうど十年でした。そのあいだ、立っては落ち、敗れてはまた立候補をすることの繰返してましたね。

編集部 その根性というか、ねばり強さには感心しましたね。それだけに当選のよろこびもひとしおのものがあつたでしょう？

渡辺 そうですね。選挙のあとご挨拶にまわっていきましてね、ある家庭に行ったら、中学生の子供をもつお母さんが言うんですよ。「うちの子が学校の先生に言われたんです。」「一度や二度くらい試験の成績が悪かったからといって、自分は駄目だなどとあきらめたらいかんぞ。渡辺朗というのが、こんどの選挙で当選したけど、これまであの男は落選ばかりしていたんだが」これはうれしかったですね。(笑)

編集部 何度目の勝負だったのですか？

渡辺 四度目です。

行動を支えるものは何か

編集部 苦しい戦いの連続でしたね。ところで、実践とか運動というのは平坦な道ではありませんね。失望や氣力喪失の繰返しだと思いませんか。いい、どんな氣がまえが行動を支え

るものになつていくと思いませんか？

渡辺 運動をつづけることは組織というものが掲げた目標の魅力、それと組織を構成する人間一人ひとりの意欲にかかわる問題だと思わんですよ。しかし、実際には一人ひとりの心の中の格闘ですね。絶望したり、自分を奮い起したりすることの連続ですから。ことに革新の選挙運動というのは、思想運動である一面、啓蒙活動ですから持続性を必要とするわけです。

私は、行動の持続性というのは、人によって抛りどころにしているものは違うだろうと思わんですよ。私の場合は「人間に興味をもとう」と自分に言いかせてきたんです。

編集部 と、いうと？

渡辺 「自分はもう駄目だ」と思ったり、挫折感でスランプにおちいってしまったことはたびたびでしたが、二度目の選挙のあと自分の心のもち方を変えたんですよ。選挙区の人々のもの

の考え方、生き方を突っこんで考えてみよう、と。それまでは、「票をもらえるかどうか」というアプローチでしたね。それを、まず、この風土の中で人間研究みたいなところにアプローチを変えたいと言えますね。

私は郷土史なんか興味があったもんですから、幕末からの歴史や人物をむさぼるように読みましたよ。そういう眼でまた、人に会ってみると面白いですね。人間発見とでもいいますかね。とても新鮮な眼で、西伊豆の海岸地帯の漁民に接することができると、閉鎖的だときめてかかっていた農民層のふところに入っていくことができるようになったように思いますね。

土着の思想・外来の思想

編集部 その郷土史的な眼というのは、どんな見方を意味していますか？

渡辺 そうですね。いま沼津市とい

うのは人口二十万のあんまりパツとしない大都市です。名物といったらアジの干物ぐらいかもしれない。ところが、この町を例にとってみても、百年ほど前は時代の最先端をいく西欧文化のセンターとしてはなばなしの動きをしているんですね。「徳川陸軍兵学校」と呼ばれる科学技術と軍事のアカデミーが明治二年に設立されているのです。創立者に西周、赤松大三郎などという名がならんでいますし、初代校長は江原素六（のも麻布学園の創立者）です。

これがわずか明治四年ごろでつぶれて、数百名の優秀な生徒が明治政府の権力のために挫折してしまします。徳川末期に近代科学をとりいれようと計画したけれども、時代の変化のテンポの方が早く、その力に押しつぶされたと言えるかもしれませんね。私が興味をもつのは、そうした時代の圧力のもとで挫折したものが権力に対する反

撥を媒介にして、やがて自由民権運動につながっていくプロセスなんです。いまいった江原素六という人は、この地域の自由民権のリーダーになっていきます。また、学生だった中には田口卯吉もいました。つまり、今は魚くさい町にしかすぎない沼津というところにしても、反抗と挫折の歴史が埋まっているということなのです。その連続した水脈のうえに現代をとらえることだと思ふんですよ。

編集部 そうした現代のとらえ方と、あなたのつづけてきた運動とはどのような具体的なつながりをもつことになりませんか？

渡辺 ひとことと言ったら、土着のものを発見することだと言えます。

「民主社会主義」といい、「民社党」というものは、この伝統社会の中では異邦人なんです。大都会は別ですよ。私の選挙区では市民権をもたないできた

思想であり、政党だったので。なにせ保守の牙城ですからね。その中でただ一つ公認された反対派は戦前から戦後にかけての農民運動ですよ。「社会党」という看板の人びとが、昔の小作争議の遺産を喰いつなぎながら、労働組合のバックアップを足場にこれまで少数派として店を張ってきました。そこに民主社会主義と民社党でしょう。しかも説いているところはバタ臭さがある。仏教社会に入り込んできたキリスト教の伝道師みたいな孤立感です。

自分が自分の気持の中の孤立感をぬぐいさらなければ、ほんとうの伝道はできないはずだ。それは自分が土着の伝統とのつながりを発見することだと思ふのです。

編集部 渡辺さんは、自由民権運動の延長線上に、民主社会主義という思想を置こうとしたわけですね。

渡辺 それも「発見」の一つです。

直線的な連続の上に位置づけようとは思いませんが、挫折感と格闘している自分を何か勇気づける支えとしては大事なものだと思っています。

だいたい、日本でキリスト教人口というのはつねに全体の一パーセントだといえますね。民社党がそれと同じで、つねに六パーセントや七パーセントの勢力どまりでは困るんですよ。（笑）やっぱ、この地域社会の風土に根づいた公民権をもつ思想や考え方と接続をもつものにしていかなければのびませんね。

編集部 土着的なものとの接続させる

ことは重要な点だと思ふますが、ややもすると接ぎ木の形になってしまいうるに思ふます。民主社会主義を説明するとき、どうしてもベルンシュタインの思想とか、社会主義インターのフランクフルト宣言といった解説が先に立ってしまつて、あなたの言うバタ臭さが残るからです。その点は「その考え方は立派だが、しかし……」といわれるように、なかなか大衆的な魅力とならない現状と関係があると思ふのですが。

渡辺 私は、その点で民社研の方々が雑誌のうえで戦前の無産運動史を書

いたり、あるいは戦後の政党史をとりあげて啓蒙しておられることは非常に意味があると思ふます。もつともっと多くの人々がわが国の近代史に対して新しいメスを入れていくべきでしょうね。そして、その中から民主社会主義の源流を取り出すことですね。

これまでヨーロッパ政治思想的な解説が知識層の主流になってきたために、バタ臭いイメージが出来たんですよ。「社会主義」そのものがまだ異国調であったり、ハイカラ思想としての域を脱していないでしょう。よく、新聞や雑誌のうえで「マルクス・レーニ

矢島鈞次・加藤寛編

新しい産業構造

その政策と転換のシナリオ

未来を先取る

斬新かつ現実的な提案！

石油危機以来の世界経済の激変に対応し、福祉国家建設への社会的欲求にこたえる「新しい産業構造」とは何か——その具体的政策と転換の論理をグローバルな観点から明らかにする。民社研叢書6 価一〇〇〇円（送料160円）

民主社会主義研究会議
東京都渋谷区神南1-20-6
電話 03-463-5270 〒150

ン主義の日本的適用」などという表現を見ますけど、はじめにイデオロギーがあつて、現実がモザイクのように上手にハメこまれていく形ですね。なんのことはない、「シラノ・ド・ベルジュラック」を「白野舟十郎」としただけのことですよ。

民主社会主義というのはそうした考え方と違って、現実の分析から出発して法則性を見出していこうとすることだと思ふんです。その法則はどんなものなのか未知数だという前提です。私は、その素材を歴史の中の、あるいは現代社会の中の理想主義が何かにぶつかり、あるいは押しつぶされて挫折したところに見出したいと思つてゐるんです。

その意味で、自由民権だとか、米騒動、田中正造事件とかいうような社会的に大きなものでなくとも、それぞれの地域社会に沢山の挫折した民衆運動がある。現代においても、住民運動と

呼ばれるものが簇生している。中にはずいぶん地域エゴ、住民エゴに毒されているものもありますよ。それらを調べてみると挫折している方が多いんですね。だいたい、挫折というものは、時代的矛盾、社会的な矛盾の集約ですからね。ときには内部に矛盾をはらんでいたからです。私は、そうしたものをたんねんに調べていこうと考えているんです。おそらく、その中から埋没した理想主義や民衆のエネルギーをひきだすことができる……。

村意識の「エゴ」と評論家の立場

編集部 渡辺さんはご自分でもそうした運動に入つていかれたわけですね。

渡辺 ええ、そうです。ここ数年来の党活動というのは、すべてといつていろいろにそうした社会矛盾をテーマにした集団の民衆運動、住民運動で

すからね。

最初から自分で納得して入つていった住民運動もありました。そういうのは成功するとうれしいものですね。しかし、途中でどうも納得がいなくなるとありますよ。ムシロ旗をたてて尿尿処理場建設反対と頑張っているんですが、結局自分の村からよその村への放逐にすぎないんですね。そうすると次の村も同じように追つぱらい闘争を始めるから、どうどうめぐり。とうとう近隣の数々町村でいままのお処理場がなくて、住民自身が自分で始末しなくてはならなくなつてしまった。(笑)

編集部 典型的な住民エゴですね。

渡辺 そうなんです。これに類することはずいぶんありますよ。よくよく考えれば、それはおかしいということになるんですが、それは、カッカッと燃えている「村意識」に一緒に飛び込んでカッカとすることなんです。それは「エゴイズムだ」といって水をか

けることは一見正しいけど、根本では間違つてゐる。一緒にムシロ旗をかついで役場に押しかけながら、みんな「これはまずい」とわかることが運動というものだろうと思ふんです。エゴをたしなめるのではなくてエゴを自覚する。

私は自分をかえりみて、以前ははじめから「たしなめる立場」「水をかける立場」とついていたわけです。民社党の人はよく「良識」と言うでしょう。まさに良識の立場なんです。ところが、カッカしている側から見るとその

「良識」は傍観者であり、ときには「敵」ですらあるんですね。カッカした側がやがて「しまったな」と冷静になったとき、それでは「良識」派に敬意を払ってくれるだろうか、となると違ふんですよ。「やっぱりあの人の言つたとおりだ」とは思わない。逆に深いミゾが出来てしまつてゐる。「民社党はいいことを言う、だが」と、「だが」のつくりアクションが生じるのじやあないでしょうか。

編集部 ムシロ旗と渡辺さんのイメージは合わないんだけど、どうしてま

たそんなことに?(笑)

渡辺 そう言われるとどうも。実は、二度目に落選したときに、もう選挙はやめよう、と思つたんです。ちょうどその頃、きだ・みのるの『きちがい部落周遊記』だつたかな、たしか、岩波新書でしたよ。それを読んでから、しばらく彼の著作をずっと読んでみた。彼はフランスで社会学を学んだハイカラな学者です。その彼が、日本の村にはタブーがあり、そのタブーを守らなければ村八分になり、ムラの人間とは認められないんだ。そのタ

藤田至孝 著

新時代の賃金・福祉

働く者の理論ととりくみ

中成長、高齢化・高学歴化社会における賃金決定、特に賃上げ率について詳細に論じる。また、これからは「福祉も賃金の一部」と考えるべきで、源資の配分を働けるときにはむしろより小さく、働けなくなったときの福祉のためにより大きくすべきことを説く。
民社研叢書10・二〇〇円(送料120円)

民主社会主義研究会 議
東京都渋谷区神南1-20-6
電話 03-463-5270 〒150

民社研叢書

変身する日本共産党

議会主義
鑑別法
〈増補版〉

吉田忠雄著

はたして思想の自由を守る議会主義政党として、理論・行動ともに変ったかどうか。リトマス試験紙の反応は青か赤か——。物心両面での豊かな社会づくりに情熱を傾ける戦闘的民主社会主義者の日本共産党批判の書。価800円(送料140円)

民主社会主義研究会議

東京都渋谷区神南1-20-6
電話 03-463-5270 千150

ブーとは(一)人のものを盗むな、(二)人の家に火をつけるな、たしかにそういうことを書いたあとで、第三のタブーとして、「村の者の悪口を外の人に言うな」と言っているんです。これは私にとって驚きでしたね。

日本という社会は、モダンなよそおいはしているけど「巨大なムラ」ですよ。私はそのムラの外側にいつも立っていたんです。

自分の選挙区で生まれたわけでもなく、少年時代を過したのが満州や中国でしょう。学校は、といえれば京都や東京だから、親戚や友人は一人もいな

い。考え方は、といったら「良識」型の民社風。これは完全にムラの外ですよ。私の選挙区は地縁・血縁の複合した社会なんです。そうした地域では私はヨソ者であり、土地の言葉で言うところ「流レモノ」と呼ぶんです。(笑)ほんとうですよ。私が拒絶反応にあうのは、これはもう当然のことだったわけです。

そのことに気がついたから、自分の考え方を転換させていこうと考えたのですよ。小手先やポーズでそんなことをしても所詮つけ焼刃にしかならないから、自分としては選挙とか、票をも

らうということは二の次に置いて、風土を研究したり、人間の生き方を調べていこうという考え方をしたわけですよ。

編集部 その中から土着的なものを見出していこうとお考えになったわけですね。

渡辺 そうです。これからも土着的なものの上でいいたい。どうしたら民主社会主義思想の根を張ることができなのか、我流で、自分自身を実験台にしながら摸索をしていこうと思っ